

感染症・予防接種レター (第73号)

日本小児保健協会予防接種・感染症委員会では「感染症・予防接種」に関するレターを毎号の小児保健研究に掲載し, わかりやすい情報を会員にお伝えしたいと存じます。ご参考になれば幸いです。

日本小児保健協会予防接種・感染症委員会

委員長 多屋 馨子
菅原 美絵

副委員長 岡田 賢司
津川 毅

乾 幸治
古賀 伸子

三田村敬子
三沢あき子

並木由美江
渡邊 久美

成人男性を対象とした風疹の定期予防接種が決まりました

～2020年度の排除を目指して～

I. 2018年, 風疹全国流行

2012～2013年の全国流行後, 少ないまま推移していた風疹の患者報告数が2018年7月末頃から首都圏を中心に急増し始めた(図1)¹⁾。予防接種歴なし, あるいは接種歴不明の成人男性が中心の流行である(図2)¹⁾。東京都からの報告が945人(暫定値)と最も多く, 神奈川県, 千葉県, 埼玉県, 福岡県, 大阪府, 愛知県でも100人を超えた(図3)¹⁾。報告がなかったのは2019年1月7日現在, 2県(青森県, 大分県)のみであった(図3)¹⁾。

II. なぜ風疹の流行を抑制したいのか

風疹に対する免疫が不十分な妊娠20週頃までの妊婦が風疹ウイルスに感染すると, 胎児にも感染が拡がり, 出生児が先天性風疹症候群(congenital rubella syndrome)を発症する可能性がある。CRSは, 眼, 耳, 心臓等に生まれつきの障がいをもつ疾患で, 特に妊娠

初期に感染すると発症頻度が高く, 複数の症状をもつことが多い。また, 3主徴以外にも, 多彩な症状が報告されている(図4)²⁾。

「早期に先天性風しん症候群の発生をなくすとともに, 平成三十二年度までに風しんの排除を達成すること」が国の目標であり, 2013年の全国流行後に告示され(2014年3月28日), 2017年12月21日に一部改正, 2018年1月1日に適用された「風しんに関する特定感染症予防指針」³⁾に明記されている。

III. 成人男性への風疹定期予防接種導入

2018年の全国流行を受けて, 厚生労働省は, これまで1回も定期接種として風疹含有ワクチンの接種を受ける機会がなく, 患者発生が多い1962(昭和37)年4月2日～1979(昭和54)年4月1日生まれの男性(図5)を対象に, 風疹定期接種(A類疾病)導入を決定した。風疹の抗体検査を前置することが条件であるが, 低い抗体価の場合は, 予防接種法に基

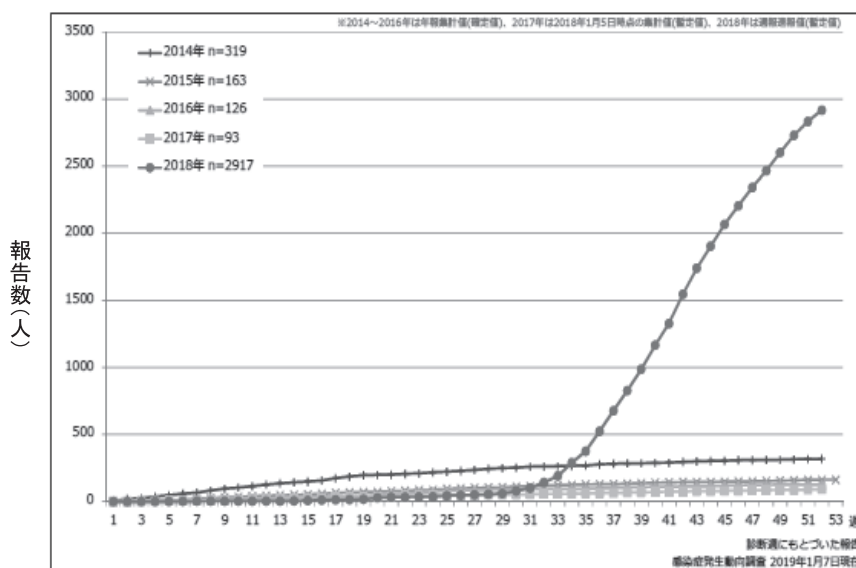


図1 週別風疹患者累積報告数2014年第1週～2018年第52週 (n=2,917) (文献1から引用抜粋)

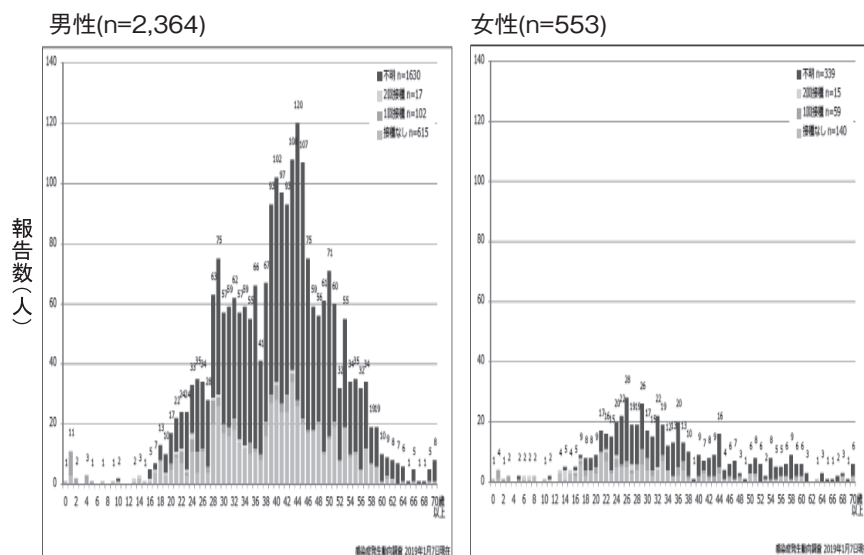


図2 性別年齢別予防接種歴別風疹患者報告数2018年第1～52週（文献1から引用抜粋）

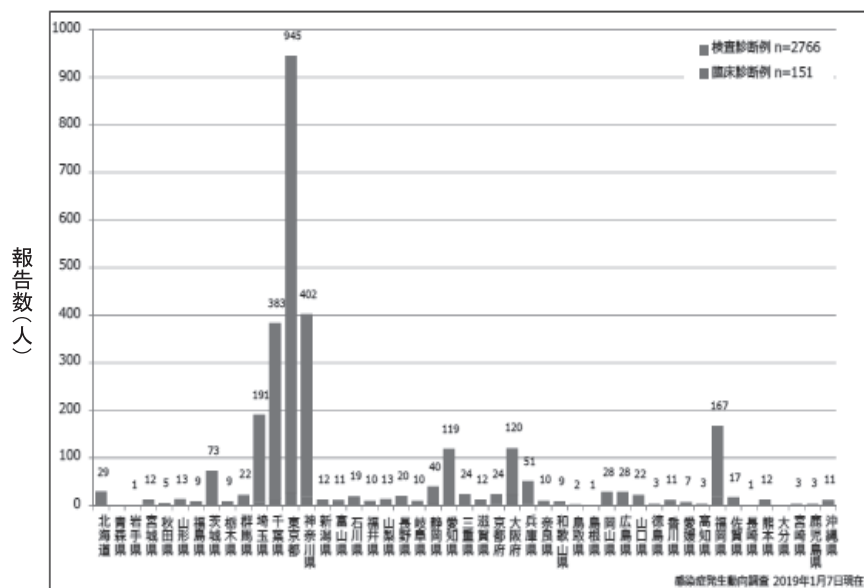


図3 都道府県別風疹患者報告数2018年第1～52週（n=2,917）（文献1から引用抜粋）

づく定期接種として接種が可能となる。この制度は2019年から開始する方針が決まっており、2021年度までの約3年間の時限措置である。

IV. 今後の課題

制度があっても実践が伴わなければ風疹の流行を止めることはできず、2020年度の排除達成も困難となる。2019年1月1日現在、39歳9か月～56歳9か月の男性に抗体検査と抗体価が低かった人に予防接種を受けてもらうには、受けやすい環境整備も大切である。

まず、対象者に定期接種が始まったこと（定期接種A類疾病は国の積極的勧奨があり、本人には予防接

種を受けるように努める義務がある）を周知し、公費で抗体検査と予防接種が可能であることをまず知ってもらうことが重要である。そのうえで、この貴重な機会を逃さずに、感受性者はワクチンを受けて風疹に対する免疫を強化し（個人予防）、感受性者の蓄積をなくすことで風疹の流行を抑制し（集団予防）、妊婦への感染拡大も予防したい。

V. 今すぐ実行へ

女性は今回新たに導入された定期接種対象には含まれていないが、妊娠前に「1歳以上で2回の予防接種の記録を持つこと」は変わらず重要である。

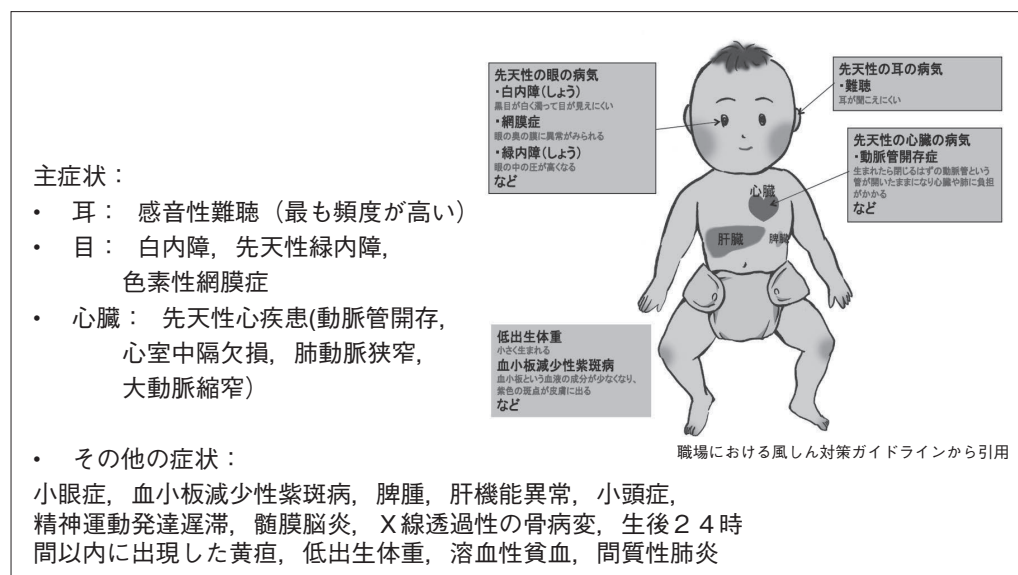


図4 先天性風疹症候群（CRS）の症状

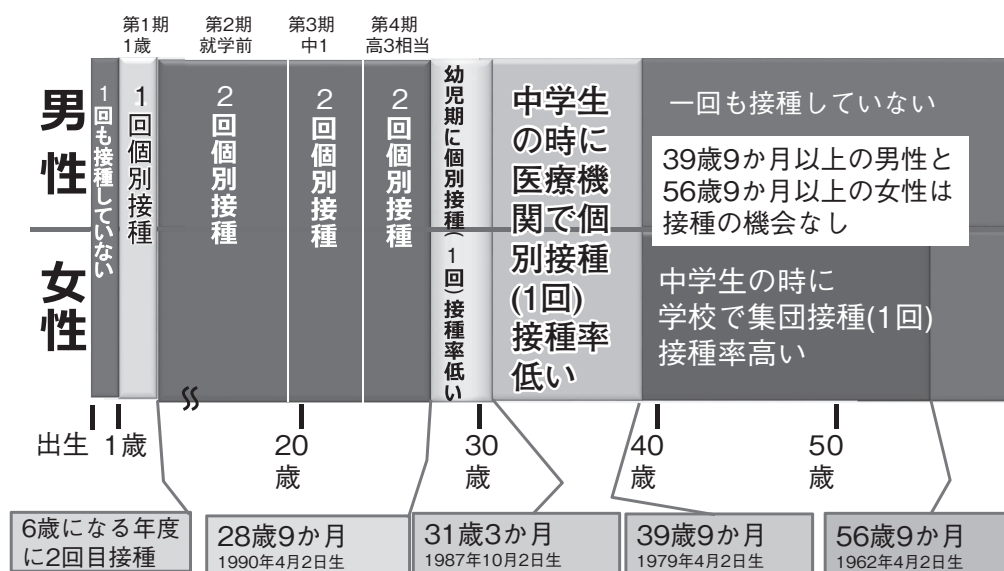


図5 風疹含有ワクチンの定期予防接種制度と年齢の関係（2019年1月1日時点）

風疹は子どもの軽い病気と侮られているが、重症化の可能性もある。2018年第1～52週の1年間に2,917人が風疹と診断されているが（図1～3），このうち13人は血小板減少性紫斑病を合併し，また1人は脳炎を合併したと報告されている¹⁾。今回の定期接種導入を風疹排除につなげるためには，国民一人ひとりが風疹の予防を自分のことと認識することが重要である。2020年度の風疹排除達成を目指したい。

文 献

1) 国立感染症研究所感染症疫学センター．“風疹急増

に関する緊急情報” <https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ha/rubella.html>（参照2019-01-11）

2) 国立感染症研究所．“職場における風しん対策ガイドライン” <https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/rubella/kannrenn/syokuba-taisaku.pdf>（参照2019-01-11）

3) 厚生労働省．“風しんに関する特定感染症予防指針” <https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000186690.pdf>（参照2019-01-11）

（多屋 馨子）